

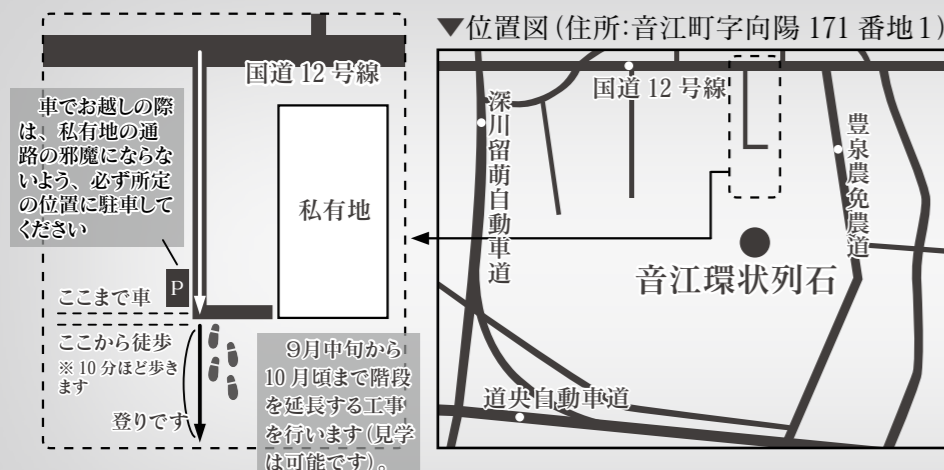
特集 市内文化財の魅力再発見

先人たちが守り、受け継いできた文化財は地域の宝です。深川市には雄大な自然、先住民族の遺跡や遺物、さらには開拓の苦労を物語る多くの貴重な文化財があります。今月は、市内にある国の指定を受けた史跡1件と市が指定した文化財11件を紹介します。この機会に地元の歴史を感じてみませんか。

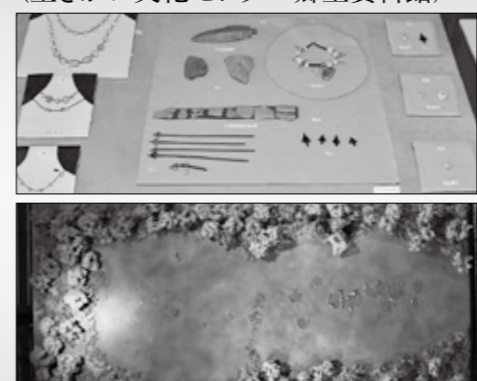
問合せ先 生涯学習スポーツ課文化・スポーツ係 ☎26-2343



写真:音江環状列石



▼環状列石の出土品とジオラマ展示図(生きがい文化センター郷土資料館)



▼音江環状列石の碑



音江環状列石は、音江町稲見山の山頂に所在する本市唯一の国指定史跡であり、明治27年に初めて存在が報告されてから128年の間、大切に保管され続けています。小ささまざまな石が直径2〜5メートルの円形に並べられていることから、別名ストーンサークルとも呼ばれています。

発掘調査は、昭和27年〜31年の間、東京大学教授の駒井和愛さんらによって合計4回実施されました。13基あるストーンサークルのうち、9基を調査した結果、石の下からひすいの飾玉や石鏃(せきぞく)、朱漆(しゅうるし)塗りの弓などが出土したほか、ベンガラ(赤い顔料)がまかれていたことから、音江環状列石は「縄文時代後期の墓」とされています。

この結果を経て、音江環状列石は昭和31年に国指定史跡となり、一連の事業を顕彰する「音江環状列石の碑」が、昭和32年に日本文化財保護協会により建設され、その重要性が認められました。

国指定史跡 音江環状列石

かんてきごう
監的塚 (一已町字一已2527番地10) 昭和55年7月3日指定



明治28年から29年に入植した雨竜屯田兵が射撃訓練に使用した命中率を確かめるための塚です。当時は土塚だけでしたが、昭和7年に在郷軍人分会によってコンクリート造りの塚となりました。射撃訓練は、大國神社参道西側より監的塚から出された標的に向かって行われていました。



たどしししまい
多度志獅子舞 昭和47年5月17日指定



多度志地区に入植した赤岩(あかいわ)氏親子が故郷の富山県に伝わる獅子舞を多度志神社に奉納し、伝承しました。この舞は、平家の落ち武者が農作物を守るため、笛や太鼓などを打ち鳴らしてイノシシを退治した古事から作られ五穀豊穰(ほうじょう)、家内安全を祈る獅子舞として現在に至っています。

おさむないちようしようじようしまい
納内町猩々獅子舞 昭和48年7月17日指定



明治28年、納内地区に屯田兵として入植した矢野浅次郎(やのあさじろう)氏が、明治40年に故郷の香川県に伝わる猩々獅子舞を受け継ぎ伝承しました。当初は、地区の地神宮に奉納していましたが、昭和12年頃に地神宮を納内神社境内に移してからは納内神社で奉納するようになりました。

とんでんほへいだいちだいたいほんぶあと
屯田歩兵第一大隊本部跡 (一已町字一已4151番地教門寺境内) 昭和55年7月3日指定



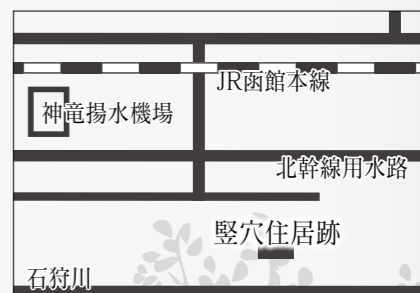
明治28年から29年、内陸部の開拓を目的に雨竜屯田兵村の編成が行われました。その際、札幌にあった屯田歩兵第一大隊本部を深川に移す計画が立てられ、移転したのがこの場所です。当時の建物は残っていませんが、標柱が建てられ、その位置が示されています。



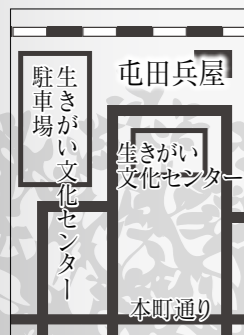
せんじゆうみんぞく たてあなじゆうきよあと
先住民族の竪穴住居跡 (納内町納内4168番地先石狩川河川敷) 昭和55年7月3日指定



東納内遺跡の発掘調査で発見された擦文(さつもん)時代(約700~1400年前)の竪穴住居群です。これらには、竈(かまど)の煙を外に出すための煙道がついており、擦文土器や石斧などの石器類、須恵器(すえき)の破片が出土しています。石狩川対岸にある旭川市の北海道指定史跡神居古潭竪穴住居遺跡と一連のものと考えられています。



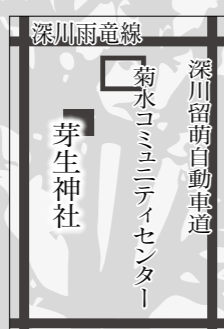
とんでんへいおく
屯田兵屋 昭和52年6月21日指定 (西町3番15号生きがい文化センター敷地内)



明治28年から29年、一已と納内に入植した雨竜屯田兵の住居を復元し移築したものです。梁(はり)の一部には当時のものが使用されており、内部は土間や炉、4畳半・6畳の部屋、便所なども再現されています。事前に申し込みが必要ですが、中を見学することができます。

【問合先】生きがい文化センター ☎22-3555

めむじんじやほんでん
芽生神社本殿 (メム6号線本通) 昭和46年5月20日指定



明治33年、メム地方で多く採れたヤチダモを素材に、奈良県から移住した浦典相(うらてんそう)氏が中心となり建てられました。本殿には、1.4メートルもある竜の彫刻が施され、現在は、縁結びの神社としての評判もあり、道外から参拝者が訪れています。事前に申し込みが必要ですが、中を見学することができます。

【問合先】芽生神社 ☎090-1303-6822

しょうじようしごだん
猩々獅子五段ぐずし 昭和40年9月17日指定



明治28年から29年、一已地区に入植した屯田兵とその家族が開拓を終えて故郷の讃岐地方に里帰りした際、獅子頭などの道具を一式購入して獅子舞の師匠とともに一已村稲穂地区へ持ち帰り、明治35年9月に大國神社の例大祭に奉納したのが始まりです。

ふかがわすいとうはつしようち
深川市水稲発祥の地 (音江町字音江400番地12) 昭和57年4月1日指定



岩手県出身の高橋惣吉(たかはしそうきち)氏が水稲栽培を成功させた場所です。北海道における水稲栽培は、明治30年頃まで寒冷な気候の影響で失敗続きでしたが、惣吉氏は試作を繰り返し明治25年に栽培を成功させたようです。

おとえぼつけえきていしよあと
音江法華駅通所跡 (音江町字音江42番地3) 昭和57年7月3日指定

駅通所とは、北海道の開拓時代にできた宿場のことで、北海道内陸の開拓を目的に開通した上川道路(国道12号線の前身)の完成に伴い、明治22年に建てられました。現在、建物は残っていませんが、宿場のほか、本屋やきゅう舎などの施設があり、上川道路の中継点として、宿泊と運送の重要な拠点となっていました。



市指定文化財
市が指定する文化財 11 件を紹介しします

- 有形文化財 3
- 無形文化財 3
- 史跡 5

きゆうわしだのうじようじむしよ
旧鷺田農場事務所 (音江町2丁目11番38号) 昭和52年6月21日指定



福井県から移住した鷺田軍蔵(わしだぐんぞう)氏が、自宅兼農場事務所として明治43年から3年の歳月をかけて建てたもので、昭和の時代に音江村が買い上げ、町役場や公民館として使用していました。階段および2階和室などの一部は当時のまま残されており、カツラやエンジュの長材柱などから当時の豪壮さを感じることができます。事前に申し込みが必要ですが、中を見学することができます。

【問合先】生涯学習スポーツ課 ☎26-2343